

第 1 章

毎日の生活の様子

武内 清 (1節1～6項)

浜島 幸司 (1節3・4項、3節)

元森絵里子 (1節7・8項、2節)



第1節

日ごろの生活

1. 生活時間（起床時刻・就寝時刻・睡眠時間）

「12時30分ごろ以降」^{※1}に就寝する割合は、小学生4.1%、中学生26.8%、高校生44.1%で、とくに学習塾や予備校に通う子どもでその割合が高い。高校生は起床時刻が早く、中学生は遅い傾向にある。高校生の2人に1人の睡眠時間は「6時間以内」であり、長時間学習している高校生は睡眠時間が少ない傾向もみられる。

現在は昔に比べ夜遅くまで繁華街が賑わいコンビニが遅くまで営業し、深夜までのテレビ番組が多いなかで、子どもたちの生活時間、とりわけ起床時刻・就寝時刻・睡眠時間ほどようになっているのであろうか。

◆起床時刻

まず起床時刻を学校段階別にみたのが図1-1-1である。「6時より前」+「6時ごろ」と早起きなのは、小学生20.7%、中学生16.1%、高校生41.1%と高校生に多い。高校生は通学にかかると時間がかかるせいであろう。

「7時30分ごろ以降」^{※2}と朝起きるのが遅いのは中学生である。とりわけ男子中学生が朝遅い（男子28.2%、女子17.6%）。学習塾や予備校に通っている中学生の起床時刻は遅い（27.4%）（図表省略）。

◆就寝時刻

次に、就寝時刻を学校段階別にみたのが図1-1-2である。「10時より前」+「10時ごろ」と早く就寝するのは、小学生56.6%、中学生10.4%、高校生3.5%と小学生に多い。

「12時30分ごろ以降」^{※1}と就寝時刻が遅いのは、小学生4.1%、中学生26.8%、高校生44.1%と高校生に多い。就寝時刻と学習塾や

予備校通いととの関係を見ると、学習塾や予備校通いしている者に「12時30分ごろ以降」^{※1}と就寝が遅い児童・生徒が多い（小学生12.4%、中学生53.7%、高校生81.5%）（図表省略）。就寝時刻と家での学習時間との関係を見ると、平日に「3時間くらい」+「3時間以上」家で勉強している者で、就寝時刻が「12時30分ごろ以降」^{※1}と遅い者は、小学生で31.7%、中学生で66.1%、高校生で84.8%いて、それぞれの学校段階での平均就寝時刻よりかなり遅い（図表省略）。

◆睡眠時間

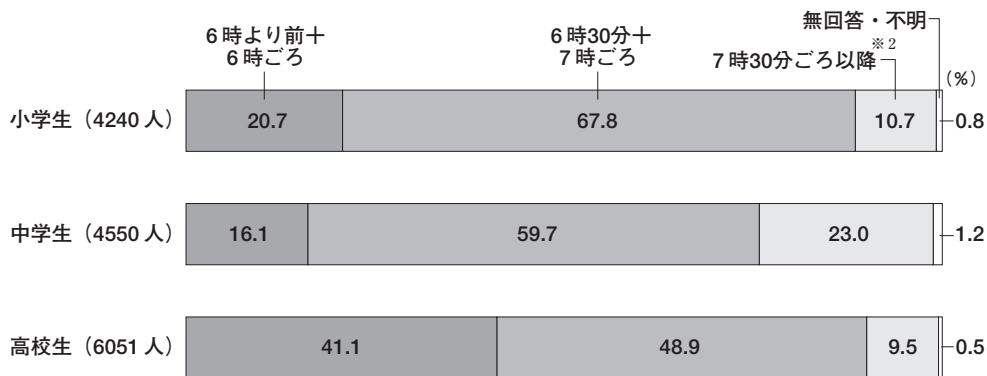
平日の睡眠時間を学校段階別にみたのが図1-1-3である。「8時間以上」の十分な睡眠をとっている者は、小学生78.8%、中学生29.5%、高校生6.6%と小学生に多い。

逆に「6時間以内」と睡眠時間が少ないのは、小学生3.2%、中学生18.4%、高校生50.1%と、高校生に多い。睡眠時間の少ない高校生に関して、学習時間と睡眠時間との関係を見ると、平日に「3時間くらい」+「3時間以上」の長時間学習している者のうち73.5%は、睡眠時間「6時間以内」と少ない（図表省略）。睡眠時間と学習時間は関連していることがわかる。

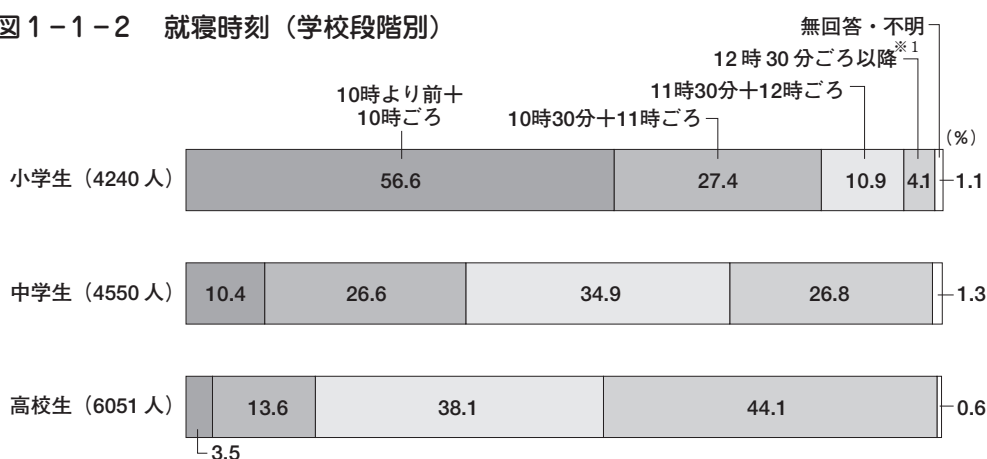
※1 「12時30分ごろ以降」＝「12時30分ごろ」+「1時ごろ」+「1時30分ごろ」+「2時ごろ」+「2時よりあと」（図1-1-2も同様）

※2 「7時30分ごろ以降」＝「7時30分ごろ」+「8時ごろ」+「8時よりあと」（図1-1-1も同様）

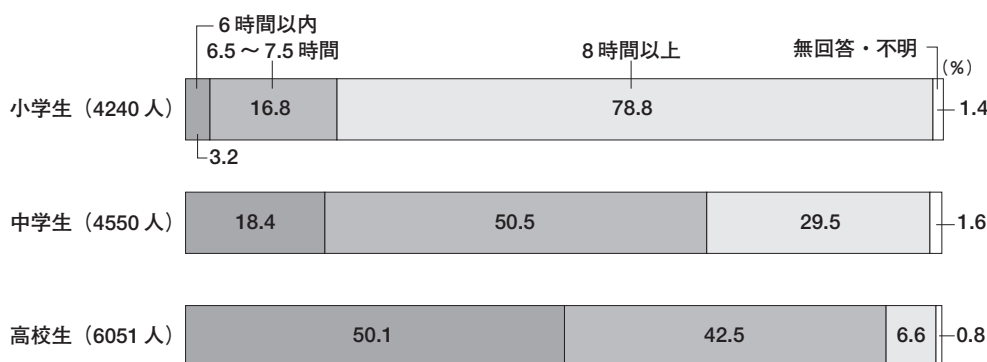
■図1-1-1 起床時刻（学校段階別）



■図1-1-2 就寝時刻（学校段階別）



■図1-1-3 睡眠時間（学校段階別）



注) 睡眠時間は起床・就寝時刻より算出した

2. 生活時間（テレビ・ビデオ(DVD)の視聴時間、テレビゲーム時間）

テレビ・ビデオ（DVD）を「3時間以上」見ている割合は、小学生23.9%、中学生28.8%、高校生16.7%で、中学生に多い。中・高生ではテレビの視聴時間と成績・高校偏差値層に関連がみられる。テレビゲームを長時間しているのは、中学生男子に多い。

◆テレビ・ビデオ（DVD）の視聴時間

テレビ・ビデオ（DVD）は、現代人の生活に欠かせないものになっている。児童・生徒たちはそれらにどのくらいの時間を費やしているのだろうか。

ふだんの日のテレビ・ビデオ（DVD）の視聴時間を示したのが、図1-1-4である。ふだんの日のテレビ・ビデオ（DVD）視聴時間の平均は、小学生2時間01分（121分）、中学生2時間15分（135分）、高校生1時間56分（116分）と中学生が一番多い。「3時間以上」という長時間視聴者は、小学生23.9%、中学生28.8%、高校生16.7%と中学生に多い。

テレビ・ビデオ（DVD）の視聴時間と家での学習時間の関係を見ると、平日に「3時間以上」見る子は、家での学習を「ほとんどしない」率が高まる（小学生11.3%・平均8.5%、中学生33.4%・平均22.1%、高校生50.6%・平均29.7%）（図表省略）。

また、テレビ・ビデオ（DVD）の視聴時間と成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）との関係を見ると、小学生では関連がみられないが、中学生では、平日に「3時間以上」と長時間見ている子は、成績上位層で22.3%、中位層27.0%、下位層38.0%と、成績下位の生徒に多い。高校生では、平日に「3時間以上」と長時間見ている生徒は、進学校7.5%、中堅校19.4%、進路多様校30.6%と進路多様校に多い（図表省略）。

このように、テレビ・ビデオ（DVD）の

視聴時間は、他の生活領域と密接な関係があり、長時間視聴は家での学習時間や学校の成績にマイナスの影響を与えていることがわかる。

◆テレビゲームで遊ぶ時間

テレビゲームは、小学生（とりわけ男子）のなかでは、相変わらずの人気ので、生活時間のなかでも一定程度の時間を占めている。

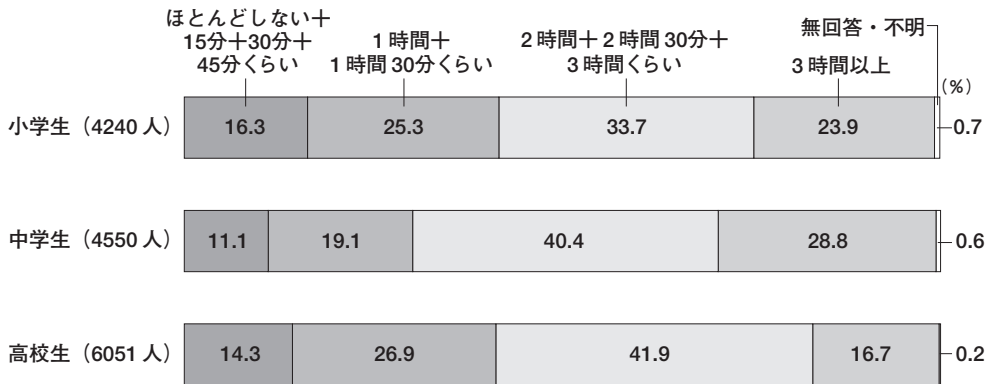
テレビゲームで遊ぶ時間を学校段階別、性別で示したのが表1-1-1である。テレビゲームを「ほとんどしない」割合は、図1-1-5に示されているように、学校段階の進行とともに増加し、高校生では男子42.2%、女子80.6%となっている。小学生で「ほとんどしない」割合は、男子12.2%、女子35.5%なので、逆に小学生男子の9割弱、女子の6割強がふだんテレビゲームをしているという数字が得られている。

「2時間くらい以上」*の長時間テレビゲーム嗜好者は、小学生21.6%、中学生24.9%、高校生11.9%である（基礎集計表参照）。男子だけでみると、小学生31.9%、中学生34.4%、高校生17.9%で、とりわけ男子中学生に多くなっている。

テレビゲーム時間と学習時間の間にはとくに関連はない。また、母親の就労形態との関係を見ても、働いている母親をもつ子どもがよくテレビゲームをしているという傾向を見いだすこともできない（図表省略）。

*「2時くらい以上」＝「2時間くらい」＋「2時30分くらい」＋「3時間くらい」＋「3時間以上」

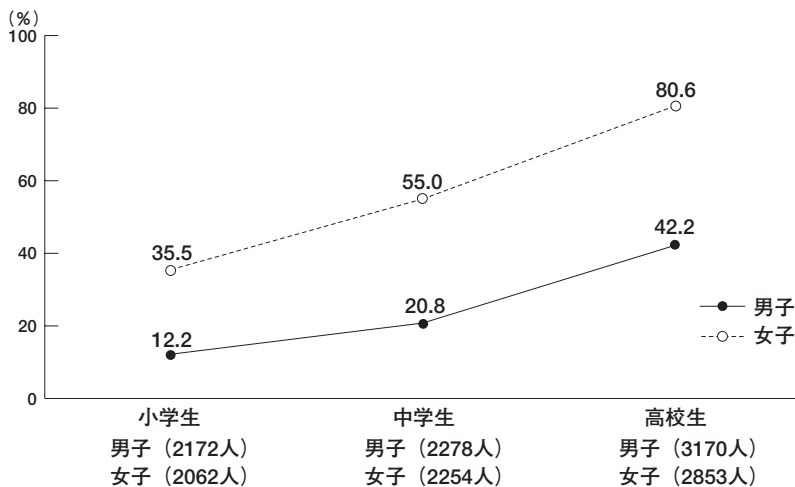
■図1-1-4 テレビ・ビデオ（DVD）の視聴時間（学校段階別）



■表1-1-1 テレビゲームで遊ぶ時間（学校段階別、性別）

	男子			女子		
	小学生 (2172人)	中学生 (2278人)	高校生 (3170人)	小学生 (2062人)	中学生 (2254人)	高校生 (2853人)
ほとんどしない	12.2	20.8	42.2	35.5	55.0	80.6
15分くらい	3.9	1.8	2.6	8.3	3.2	1.8
30分くらい	12.4	7.9	9.6	16.8	7.6	4.0
45分くらい	7.0	3.9	2.3	6.9	2.2	1.1
1時間くらい	18.6	20.5	18.3	13.9	11.8	5.6
1時間30分くらい	13.1	10.1	6.4	7.3	4.2	1.4
2時間くらい	12.2	16.1	9.4	4.5	7.1	2.5
2時間30分くらい	5.1	4.3	1.6	2.2	2.0	0.3
3時間くらい	3.6	3.9	1.9	1.4	2.0	0.8
3時間以上	11.0	10.1	5.0	2.5	4.3	1.6
無回答・不明	1.0	0.7	0.5	0.6	0.5	0.2

■図1-1-5 テレビゲームを「ほとんどしない」割合（学校段階別、性別）



3. 学習時間（家での学習時間）

平日・休日とも家で学習をしない子どもたちは、学校段階が上がるにつれて増える。その一方で、平日・休日とも「1時間30分くらい以上」^{※1}学習する子どもたちも、学校段階が上がるにつれて増えている。学習を「する」者と「しない」者との二極化が進んでいる。学習時間が少ないのは、女子よりも男子である。また、成績・高校偏差値層による差も大きく、学習時間は子どもたちの受験へのかかわり方とも大きく関係している。

◆日ごとの学習時間（平日と休日）

子どもたちの学習時間の低下が指摘されている。本調査でも学習時間について聞いている。学習塾や予備校を除く家での学習時間についての回答結果が、図1-1-6である。

まず、平日についてみると、「ほとんどしない」割合が、学校段階が上がるにつれて増えている。高校生では3割近くが、平日は家で学習していない。その一方で、「1時間30分くらい以上」^{※1}学習している者も、学校段階が上がるにつれて増えている。学校段階が上がると、家での学習を「する」者と「しない」者とはっきりと分かれる。

この傾向は、休日の家での学習時間についても、同様にみられる。また、平日に家で学習しない子どもは、休日にも家で学習しない傾向がみられる。その逆に、平日に家で学習し

ている子どもは、休日にも家で学習している。

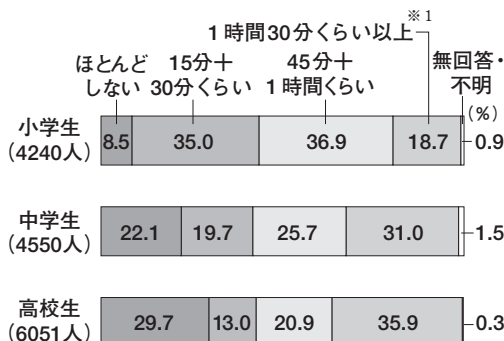
平日と休日とを比べると、小学生は休日に学習を「ほとんどしない」割合が増える。中・高生では、休日に学習を「1時間30分くらい以上」^{※1}する割合が増える。休日を学習しないで過ごすか、それとも学習に集中して過ごすか、2つに分かれる。

◆性別、成績・高校偏差値層による差

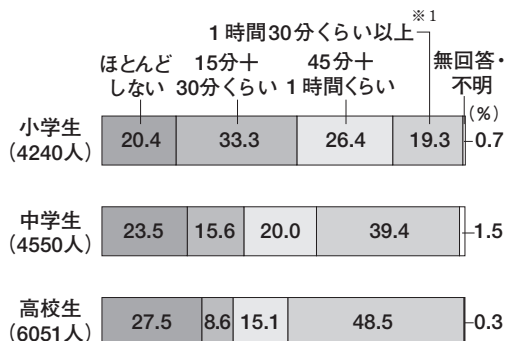
さらに性別にみた結果が、表1-1-2である。平日に家で「ほとんどしない」のは、どの学校段階でも、男子に多い。反対に、「1時間30分くらい以上」^{※1}学習している割合は、女子に多い。休日の学習時間についても、同様の傾向がみられる。小学生男子の4分の1は、休日に学習を「ほとんどしない」。

■図1-1-6 家での学習時間（学校段階別）

①平日（学校がある日）



②休日（学校がない日）



※1 「1時間30分くらい以上」＝「1時間30分くらい」＋「2時間くらい」＋「2時間30分くらい」＋「3時間くらい」＋「3時間以上」（表1-1-2・3も同様）

※2 「2時間くらい以上」＝「2時間くらい」＋「2時間30分くらい」＋「3時間くらい」＋「3時間以上」

成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）別でみた結果が、表1-1-3である。平日・休日とも、どの学校段階においても、成績上位層の「1時間30分くらい以上」^{※1}の割合が多い。また、休日は、平日よりも「1時間30

分くらい以上」^{※1}学習する割合が多くなる。一方、成績下位層では「ほとんどしない」割合も多い。高校偏差値層別では進路多様校の7割近くの生徒が、平日・休日とも家での学習は「ほとんどしない」。

■表1-1-2 家での学習時間（学校段階別、性別）

①平日（学校がある日）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (2172人)	女子 (2062人)	男子 (2278人)	女子 (2254人)	男子 (3170人)	女子 (2853人)
ほとんどしない	10.8	6.1	22.7	21.6	32.6	26.3
15分+30分くらい	36.6	33.3	20.1	19.1	13.3	12.6
45分+1時間くらい	35.0	38.8	27.0	24.3	21.5	20.5
1時間30分くらい以上 ^{※1}	16.7	20.8	27.7	34.2	32.1	40.3

②休日（学校がない日）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (2172人)	女子 (2062人)	男子 (2278人)	女子 (2254人)	男子 (3170人)	女子 (2853人)
ほとんどしない	25.0	15.6	24.7	22.4	29.9	24.8
15分+30分くらい	32.9	33.8	16.8	14.4	9.3	7.8
45分+1時間くらい	24.6	28.1	19.8	20.1	16.3	13.8
1時間30分くらい以上 ^{※1}	16.9	21.7	36.5	42.5	44.0	53.5

■表1-1-3 家での学習時間（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

①平日（学校がある日）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (1193人)
ほとんどしない	4.6	7.0	13.3	15.9	21.1	29.5	13.6	27.5	67.7
15分+30分くらい	30.4	38.1	37.1	18.0	18.7	22.7	11.0	14.8	13.4
45分+1時間くらい	39.6	38.1	36.3	27.0	25.6	24.4	21.1	25.3	12.0
1時間30分くらい以上 ^{※1}	24.4	16.6	12.3	38.0	32.4	22.2	53.9	32.2	6.2

注）成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

②休日（学校がない日）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (1193人)
ほとんどしない	15.0	17.9	27.7	16.2	22.7	32.0	11.3	24.5	67.5
15分+30分くらい	29.4	37.6	35.0	13.9	14.6	18.5	5.7	10.9	10.3
45分+1時間くらい	27.8	29.5	23.2	21.2	18.6	20.3	13.2	19.3	10.6
1時間30分くらい以上 ^{※1}	27.2	14.7	13.1	47.7	42.0	27.9	69.5	45.1	11.2

注）成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

◆受験の存在

小学生では、私立中学を受験する予定の子どもが受験しない子どもより、よく学習している。平日「1時間30分くらい以上」^{*1}学習する割合でみると、私立中学を受験する子どもは43.6%いるのに対して、受験しない子どもではその割合は13.9%である（図表省略）。休日にもよく学習している。休日に「2時間くらい以上」^{*2}学習する子どもは、私立中学を受験する子どもでは34.5%いるのに対して、受験しない子どもではその割合は8.7%である（図表省略）。

また、将来の進路希望と家での学習時間が関連している。たとえば、中学生で平日に「1時間30分くらい以上」^{*1}家で学習している割合を進路希望別にみると、「中学校まで」17.1%、「高校まで」22.8%、「専門学校・各種学校まで」33.5%、「短期大学まで」32.2%、「大学（四年制）まで」36.5%、「大学院（六年制大学を含む）」45.9%と、将来の進学希望の高い生徒ほど、よく学習している（図表省略）。

同じく、休日の家での学習時間が関連している。中学生で休日に「2時間くらい以上」^{*2}家で学習している割合を進路希望別にみると、「中学校まで」17.0%、「高校まで」21.0%、「専門学校・各種学校まで」31.7%、「短期大学まで」32.7%、「大学（四年制）まで」39.1%、「大学院（六年制大学を含む）」47.6%と、大学院や大学進学希望の生徒がよく学習している（図表省略）。

このように、受験の存在は子どもたちを、家での学習に向かわせる働きがあることがわかる。

◆学習時間の平均時間

以上の分析は、時間幅でみたものである。次にそれらを平均時間に置き換え、考察してみよう（回答をどのように数字に置き換えたのかは、変換表[#]を参照。「ほとんどしない」を「0分」としている）。

表1-1-4をみると、平日・休日とも、学校段階が上がるにつれ、平均学習時間も増えている。そして中・高生は、平日よりも休日に長く学習している。

表1-1-5は、さらに性別で比較したものである。平日・休日とも、男子よりも女子の学習時間が長い。男子は、長時間の学習をしていない。

表1-1-6は、同じく成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）別で比較したものである。小学生の時点で、すでに平日・休日とも、成績上位層が中位層・下位層と比べて、長く学習している。中・高生になると、上位層（進学校）と下位層（進路多様校）の差が大きく開いてくる。偏差値層による高校生の休日の学習時間の差異は、約100分（1時間40分）もある。

このように学習時間は、成績・高校偏差値層によって分化し、学校段階の進行とともに拡大していることがわかる。小・中学生では成績上位層ほど、平日も休日も長く学習する。一方、下位層は平日だけでなく、休日もあり勉強しない。高校生では、偏差値層によってその差は拡大している。

#学習時間変換表

ほとんどしない	→ 0分	1時間30分くらい	→ 90分
15分くらい	→ 15分	2時間くらい	→ 120分
30分くらい	→ 30分	2時間30分くらい	→ 150分
45分くらい	→ 45分	3時間くらい	→ 180分
1時間くらい	→ 60分	3時間以上	→ 210分

■表 1-1-4 家での平均学習時間（学校段階別）

	小学生		中学生		高校生	
	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人
平日（学校がある日）	52.4	4202	60.5	4480	61.5	6031
休日（学校がない日）	48.1	4211	75.1	4483	85.0	6032

注1)「ほとんどしない」→0分を含む

注2)「無回答・不明」は除く

■表 1-1-5 家での平均学習時間（学校段階別、性別）

	小学生				中学生				高校生			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人
平日（学校がある日）	49.6	2153	55.3	2044	57.5	2227	63.7	2235	57.5	3159	66.1	2845
休日（学校がない日）	43.9	2158	52.5	2048	70.6	2228	79.7	2237	78.4	3159	92.3	2846

注1)「ほとんどしない」→0分を含む

注2)「無回答・不明」は除く

■表 1-1-6 家での平均学習時間（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

	小学生					
	上位		中位		下位	
	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人
平日（学校がある日）	61.3	1246	49.3	1339	43.3	1246
休日（学校がない日）	60.0	1251	42.8	1340	36.7	1245
	中学生					
	上位		中位		下位	
	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人
平日（学校がある日）	70.3	1562	62.4	1452	48.1	1397
休日（学校がない日）	89.7	1564	77.6	1455	56.8	1395
	高校生					
	進学校		中堅校		進路多様校	
	平均(分)	人	平均(分)	人	平均(分)	人
平日（学校がある日）	85.7	2484	58.3	2359	17.4	1188
休日（学校がない日）	120.5	2485	78.4	2359	23.6	1188

注1)「ほとんどしない」→0分を含む

注2)成績(小・中学生)は、国語・算数(数学)・理科・社会・英語(中学生)の自己評価の合計点によって3区分した

注3)「無回答・不明」は除く

4. 学習時間（家や学校以外での学習時間）

「学習塾や予備校に行っている」「通信教育を受けている」などの学校以外の学習活動を聞いたところ、それらへの中学生の通塾・行動率は高い。「学習塾や予備校に行っている」のは、大都市、成績上位層、高校偏差値層の進学校生徒に多い。塾通いはおおむね週に1～2日程度である。1回の授業時間は、2時間程度が多い。

◆学校以外の学習活動

学校以外では、どのような学習活動をしているのだろうか。その結果が、図1-1-7である。

小学生では、「学習塾や予備校に行っている」「通信教育を受けている」「英会話などの語学教室に行っている」「計算や書きとりなどのプリント教材教室に行っている」の回答が1～2割の範囲で見られる。圧倒的に多いものはない。

中学生では、「学習塾や予備校に行ってい

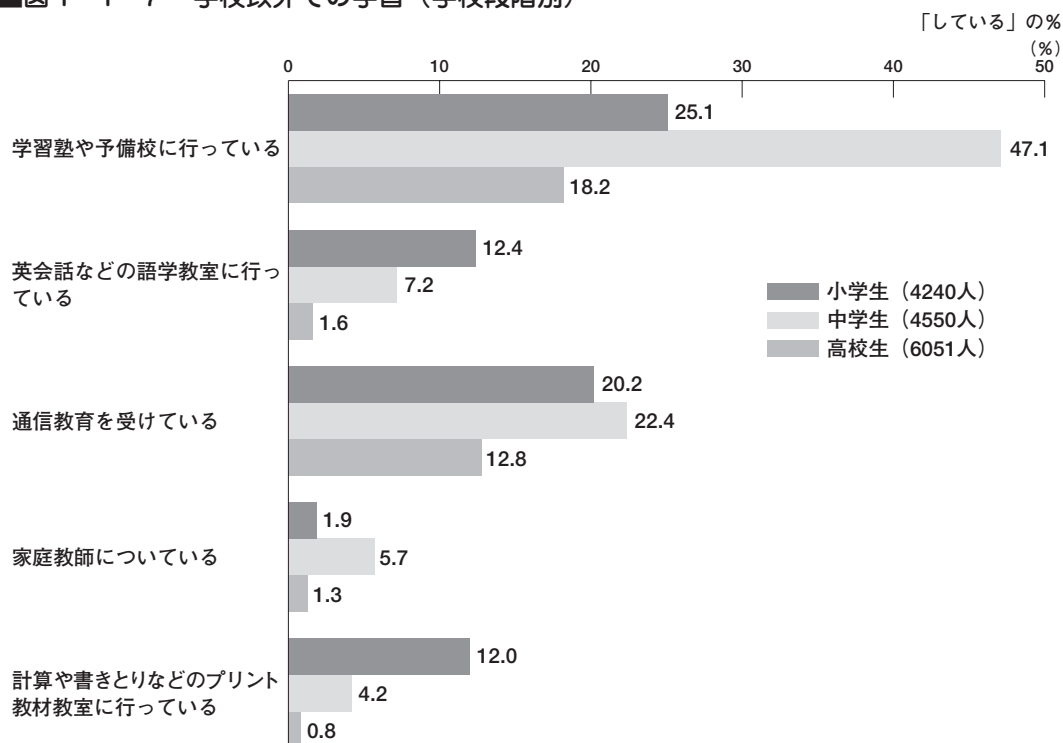
る」回答が多い。約半数が通っている。他にも「通信教育を受けている」が多い。

高校生では、「学習塾や予備校に行っている」「通信教育を受けている」がそれぞれ1～2割あるものの、小・中学生に比べて学校以外での学習活動をする者は少ない。

◆学習塾や予備校に行く児童・生徒

「学習塾や予備校に行っている」のは、どのような児童・生徒なのか。ここでは地域別、成績・高校偏差値層別にみてみた。

■図1-1-7 学校以外での学習（学校段階別）



地域別の結果が、表1-1-7である。どの学校段階においても、「学習塾や予備校に行っている」割合は、大都市に多い。大都市に塾や予備校の需要と供給が多い。

成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）別の結果が、表1-1-8である。どの学校段階においても、「学習塾や予備校に行っている」割合は、成績上位層、進学校生徒に多い。先にみた学習時間の長さについてもそうだが、学習塾や予備校に通うことと成績・高校偏差値層は大きく関係している。

◆ 学習塾や予備校に行く日数・時間・種類

「学習塾や予備校に行っている」児童・生徒に、「その学習塾（予備校）は、週に何日行っていますか」「その学習塾（予備校）では、1回に何時間くらい勉強していますか」「その学習塾（予備校）は、どのような塾ですか」とたずねてみた。その結果が、表1-

1-9である。

まず日数については、週に「1日」もしくは「2日」が標準的なようだ。中学生は「3日」通っている割合も多い。高校受験に備え、通う日数が多くなる。

次に、1回あたりの学習時間は、「1時間30分くらい」＋「2時間くらい」の回答が一番多い。次いで「2時間30分くらい以上」^{※2}が続く。小学生では「1時間未満」＋「1時間くらい」の回答もあるが、中・高生ともなれば、1回あたり「1時間くらい」以上の受講・学習が大半である。

塾・予備校の種類は、学校段階が上がるにつれて、受験を目的とした進学塾の割合が増える（小学生34.1%→中学生46.5%→高校生52.9%）。「学校の勉強がわかるようになるための補習塾」の割合は、中学生と高校生の間で減少する。

■表1-1-7 通塾率（学校段階別、地域別）

小学生			中学生			高校生		
大都市 (1460人)	中都市 (1494人)	郡部 (1286人)	大都市 (1498人)	中都市 (1458人)	郡部 (1594人)	大都市 (1707人)	中都市 (1495人)	郡部 (2849人)
39.4	18.2	17.0	54.5	44.0	42.9	23.4	13.8	17.3

(%)

「学習塾や予備校に行っている」の%

■表1-1-8 通塾率（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

小学生			中学生			高校生		
上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (1193人)
29.0	21.8	18.3	57.2	47.7	35.7	26.7	14.8	7.1

(%)

「学習塾や予備校に行っている」の%

注) 成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

■表1-1-9 学習塾や予備校について（学校段階別）

	小学生 (1066人)	中学生 (2142人)	高校生 (1100人)
その学習塾（予備校）は、週に何日行っていますか	1日	20.0	11.7
	2日	37.7	47.4
	3日	18.3	27.3
	4～7日 ^{※1}	17.7	12.0
その学習塾（予備校）では、1回に何時間くらい勉強していますか	1時間未満＋1時間くらい	27.2	5.1
	1時間30分くらい＋2時間くらい	39.0	51.5
	2時間30分くらい以上 ^{※2}	27.6	42.4
その学習塾（予備校）は、どのような塾ですか	小学生：中学校を受験するための進学塾 (中学生：高校を受験するための進学塾) (高校生：大学を受験するための進学塾)	34.1	46.5
	学校の勉強がわかるようになるための補習塾	41.2	44.7
	その他	15.2	5.6
			38.5
		6.8	

注) 「学習塾や予備校に行っている」と回答した者のみ

※1 「4～7日」＝「4日」＋「5日」＋「6日」＋「7日」

※2 「2時間30分くらい以上」＝「2時間30分くらい」＋「3時間くらい」＋「3時間30分くらい」＋「4時間くらい」＋「4時間以上」

これらの質問を、成績（小・中学生）・偏差値層（高校生）別にみたものが、表1-1-10である。まず、日数についてであるが、小・中学生では、成績上位層ほど、多く通っている。それは「3～7日」^{※2}の割合が多いことからわかる。高校偏差値層別では、進路多様校の生徒の89.4%が「1～2日」^{※1}通う。

次に、1回あたりの受講・学習時間であるが、小・中学生では、成績上位層ほど「2時間30分くらい以上」^{※4}の割合が多い。中学生の成績上位層の約半数は、1回に「2時間30

分くらい以上」^{※4}学習している。高校生では、中堅校の生徒に「2時間30分くらい以上」^{※4}の回答が多い。進学校の生徒よりも、塾や予備校で学習する時間が長い。

最後に、受験目的の進学塾へ通う割合をみると、成績上位層ほど、進学塾に通っていることがわかる。反対に、成績中位層、下位層は補習塾に通っている（図表省略）。学習塾に通う目的は、子どもの成績によって異なっている。このように、成績・高校偏差値層と通う学習塾や予備校の種類には関係がある。

■表1-1-10 学習塾や予備校について（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

		小学生			中学生			高校生		
		上位 (364人)	中位 (293人)	下位 (231人)	上位 (904人)	中位 (708人)	下位 (504人)	進学校 (665人)	中堅校 (350人)	進路多様校 (85人)
その学習塾（予備校）は、週に何日行っていますか	1～2日 ^{※1}	50.8	67.5	68.0	53.5	60.4	66.9	67.4	69.1	89.4
	3～7日 ^{※2}	43.1	27.2	22.5	45.5	37.8	30.4	32.0	30.3	9.5
その学習塾（予備校）では、1回に何時間くらい勉強していますか	2時間くらい以下 ^{※3}	61.3	75.8	73.2	46.9	60.5	67.1	65.4	57.7	75.4
	2時間30分くらい以上 ^{※4}	33.8	17.0	17.8	52.3	38.1	32.0	33.6	42.0	22.4
その学習塾（予備校）は、どのような塾ですか		中学校を受験するための進学塾			高校を受験するための進学塾			大学を受験するための進学塾		
		44.2	21.2	19.5	57.9	40.7	34.5	64.5	41.4	9.4

注1) 「学習塾や予備校に行っている」と回答した者のみ

注2) 成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

※1 「1～2日」＝「1日」＋「2日」

※2 「3～7日」＝「3日」＋「4日」＋「5日」＋「6日」＋「7日」

※3 「2時間くらい以下」＝「1時間未満」＋「1時間くらい」＋「1時間30分くらい」＋「2時間くらい」

※4 「2時間30分くらい以上」＝「2時間30分くらい」＋「3時間くらい」＋「3時間30分くらい」＋「4時間くらい」＋「4時間以上」

5. 放課後の生活（平日の放課後の過ごし方）

小学生が「よく遊ぶ」場所は、「自分の家」「公園や広場など」「友だちの家」。小学生と比べ中・高生では「学校の教室」「ゲームセンターやカラオケ」「本屋やビデオ屋」で遊ぶ割合が多くなる。

◆平日の放課後の過ごし方

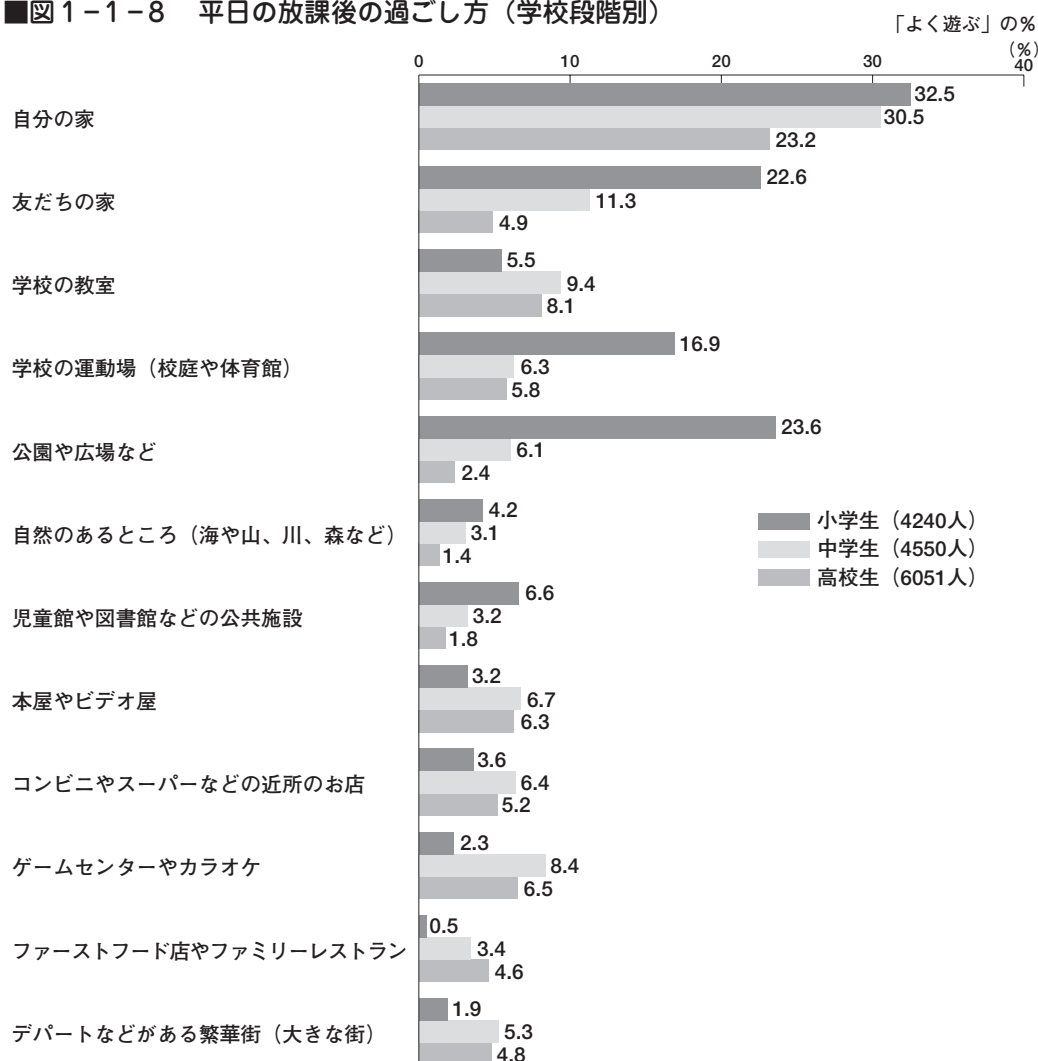
平日（学校のある日）の放課後の過ごし方を学校段階別に示したのが、図1-1-8である（「よく遊ぶ」の割合）。

小学生では、「自分の家」（32.5%）、「公園や広場など」（23.6%）、「友だちの家」（22.6

%）、「学校の運動場（校庭や体育館）」（16.9%）などが、よく遊ぶ場所として15%以上であるが、中・高生になると、それらは少なくなる。

中学生で「よく遊ぶ」場所のベスト3は、「自分の家」（30.5%）、「友だちの家」（11.3%）、「学校の教室」（9.4%）である。「ゲームセン

■図1-1-8 平日の放課後の過ごし方（学校段階別）



ターやカラオケ」(8.4%)、「本屋やビデオ屋」(6.7%)、「コンビニやスーパーなどの近所のお店」(6.4%)、「デパートなどがある繁華街(大きな街)」(5.3%)なども、小学生や高校生より多い。

高校生になると、すべての項目で、小・中学生に比べて、「よく遊ぶ」場所の割合は少なくなる。その中でのベスト3は、「自分の家」(23.2%)、「学校の教室」(8.1%)、「ゲームセンターやカラオケ」(6.5%)である。

平日の放課後に、「よく遊ぶ」場所を学校段階別に性別でみたのが図1-1-9～11である。

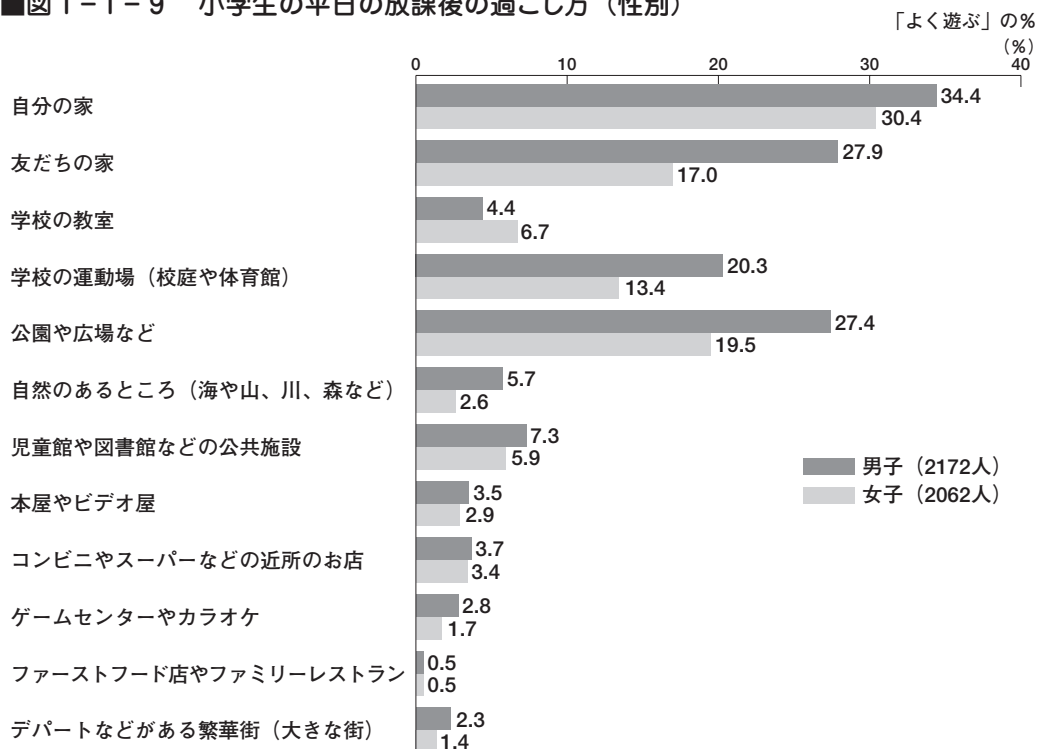
性別で見ると、小学生では、女子より男子がよく遊ぶ場所は、「友だちの家」(男子27.9

%>女子17.0%)、「学校の運動場(校庭や体育館)」(男子20.3%>女子13.4%)、「公園や広場など」(男子27.4%>女子19.5%)である。女子が男子よりよく遊ぶ場所はとくにない(図1-1-9)。

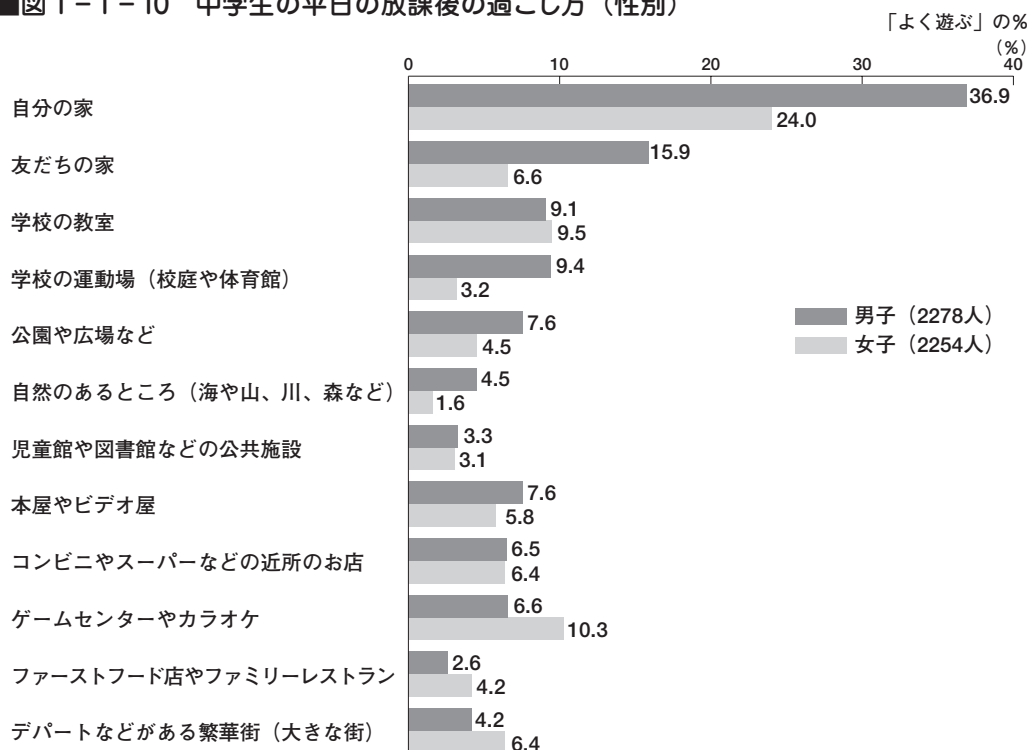
中学生では、女子より男子がよく遊ぶ場所は、「自分の家」(男子36.9%>女子24.0%)、「友だちの家」(男子15.9%>女子6.6%)、「学校の運動場(校庭や体育館)」(男子9.4%>女子3.2%)である。女子が男子よりよく遊ぶ場所はとくにない(図1-1-10)。

高校生では、女子より男子がよく遊ぶ場所は、「自分の家」(男子28.3%>女子17.4%)、である。その他では、ほとんど性差はない(図1-1-11)。

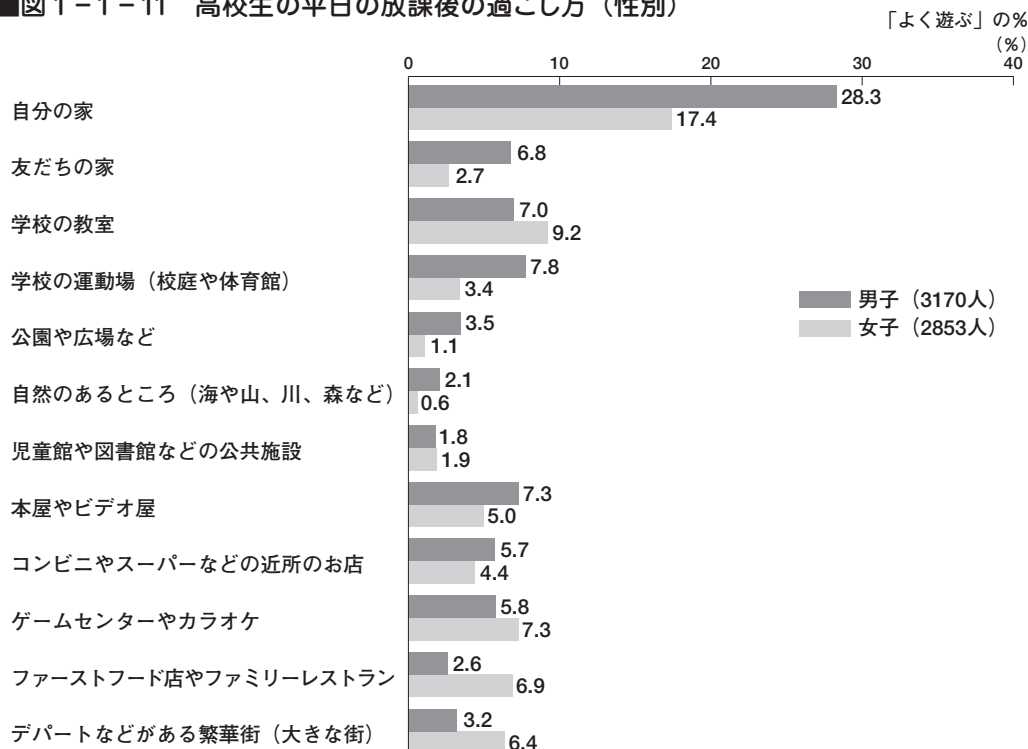
■図1-1-9 小学生の平日の放課後の過ごし方(性別)



■図1-1-10 中学生の平日の放課後の過ごし方（性別）



■図1-1-11 高校生の平日の放課後の過ごし方（性別）



6. 放課後の生活（ふだんすること）

小・中・高校生ともに「マンガや雑誌を読む」や「テレビのニュース番組を見る」ことが「よくある」+「ときどきある」割合は7～8割台。「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」や「家の手伝いをする」などは学校段階が上がるにつれて減少する。「本（マンガや雑誌以外）を読む」割合はどの学校段階でも5割台。

◆ふだんすること

スポーツや読書や家の手伝いなど、ふだんすることを聞き、「よくある」+「ときどきある」割合を示したのが、図1-1-12である。

小・中学生とも7～8割台の子どもがしているのは、「マンガや雑誌を読む」「テレビのニュース番組を見る」の2項目である。

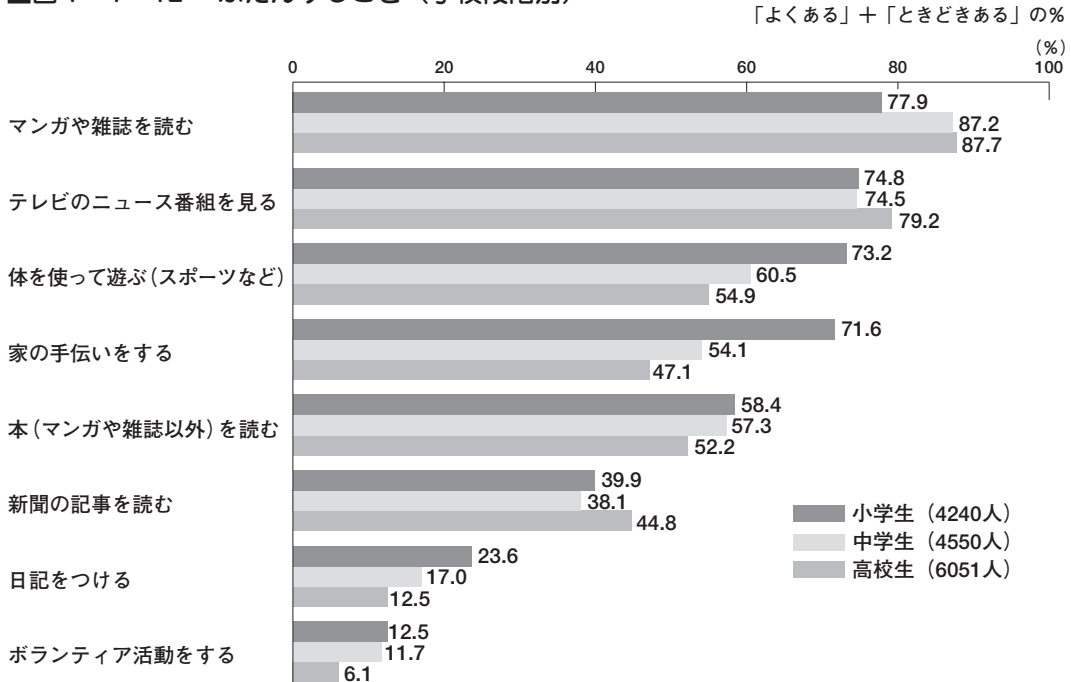
小学生で多く、学校段階が上がるとともに少なくなるのは、「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」（小学生73.2%>中学生60.5%>高

校生54.9%、以下同様）、「家の手伝いをする」（71.6%>54.1%>47.1%）、「日記をつける」（23.6%>17.0%>12.5%）、「ボランティア活動をする」（12.5%>11.7%>6.1%）である。

学校段階での差があまりなく、5割台なのは「本（マンガや雑誌以外）を読む」（小学生58.4%、中学生57.3%、高校生52.2%、以下同様）である。高校生になると多少多くなるのは、「新聞の記事を読む」（39.9%、38.1%、44.8%）である。

「よくある」割合を学校段階別・性別でみ

■図1-1-12 ふだんすること（学校段階別）



ると、小学生で、女子に比べ男子に多いのは、「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」（男子54.8%>女子36.8%）である。逆に男子に比べ女子に多いのは、「家の手伝いをする」（男子26.0%<女子37.0%）、「本（マンガや雑誌以外）を読む」（男子24.1%<女子33.8%）、「日記をつける」（男子9.9%<女子18.6%）である。

中学生で、女子に比べ男子に多いのは、「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」（男子44.3%>女子25.2%）である。逆に男子に比べ女子に多いのは、「マンガや雑誌を読む」（男子61.2%<女子69.3%）、「家の手伝いをする」（男子14.2%<女子21.6%）、「日記をつける」（男子6.5%<女子13.6%）である。

高校生で、女子に比べ男子に多いのは、「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」（男子44.7%>女子22.6%）である。逆に男子に比べ女子に多いのは「家の手伝いをする」（男

子9.9%<女子17.6%）である。学校段階が上がるにつれ、性差は少なくなる（表1-1-11）。

「よくある」割合を小・中学生は成績別、高校生は偏差値層別にみたのが、表1-1-12である。どの学校段階でも、成績上位層（高校生では進学校）のほうが、よくしていることは、「本（マンガや雑誌以外）を読む」「新聞の記事を読む」「テレビのニュース番組を見る」である。小学生では、「体を使って遊ぶ（スポーツなど）」も成績上位層に多い。その他の項目は成績・高校偏差値層による差はない。

このように、子どもたちがふだんすることは、学校段階、性別、成績・高校偏差値層などにより差異が生じている。発達段階に応じ、子どもの個性を伸ばすことをおとなは奨励したい。

■表1-1-11 ふだんすること（学校段階別、性別）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (2172人)	女子 (2062人)	男子 (2278人)	女子 (2254人)	男子 (3170人)	女子 (2853人)
マンガや雑誌を読む	49.1	52.6	61.2	69.3	60.9	57.9
本（マンガや雑誌以外）を読む	24.1	33.8	25.9	31.8	22.1	24.4
新聞の記事を読む	14.5	9.8	13.9	8.4	18.8	14.7
テレビのニュース番組を見る	42.2	41.6	40.8	37.2	39.9	42.8
日記をつける	9.9	18.6	6.5	13.6	3.1	7.5
家の手伝いをする	26.0	37.0	14.2	21.6	9.9	17.6
体を使って遊ぶ（スポーツなど）	54.8	36.8	44.3	25.2	44.7	22.6
ボランティア活動をする	2.3	2.6	2.6	2.2	1.4	0.9

「よくある」の%

■表1-1-12 ふだんすること（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (1193人)
マンガや雑誌を読む	53.4	49.4	50.0	64.3	65.5	66.1	56.1	61.5	62.5
本（マンガや雑誌以外）を読む	37.2	25.4	20.7	32.6	27.6	25.8	26.1	22.5	18.8
新聞の記事を読む	18.5	10.4	7.1	14.6	10.8	7.6	22.1	15.7	8.5
テレビのニュース番組を見る	52.1	40.3	33.1	44.1	39.1	33.4	45.4	39.4	36.2
日記をつける	16.2	15.0	12.9	10.5	11.0	8.6	5.6	4.5	5.8
家の手伝いをする	34.4	32.6	27.9	15.3	18.5	19.8	12.3	13.6	15.8
体を使って遊ぶ（スポーツなど）	52.3	46.7	39.8	37.9	34.5	32.1	32.9	35.6	34.4
ボランティア活動をする	3.3	2.7	1.8	2.2	2.7	2.3	1.2	1.2	1.3

「よくある」の%

注) 成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

7. 経験していること

現代の子どもたちの生活、文化、社会経験は、女子のほうが多いものの、全体的にそれなりに豊富である。経験の内容によっては、地域や親との関係で経験に差がみられるものもある。総じて、経験したことの数が多いほど、成績がよく、社会への関心が高く、自らの将来についてのイメージも明確である。

◆遊びの経験はそれなりに豊富

子どもたちは、今までにどのような経験を積んでいるだろうか。図1-1-13はごく一般的な12項目の経験の有無について学校段階別の回答結果を示している。

総じて、子どもたちは経験を積んでいる。回答が多い項目をみていくと、「かくれんぼやおにごっこをして遊んだこと」(小学生85.9%、中学生85.8%、高校生92.0%、以下同様)、「地域のお祭りやイベントに参加したこと」(82.6%、83.8%、82.4%)、「海や山で遊んだこと」(71.6%、69.9%、74.4%)などがある。これからは、現代の子どもはあまり外で遊ばなくなったという批判はあたらないうだ。

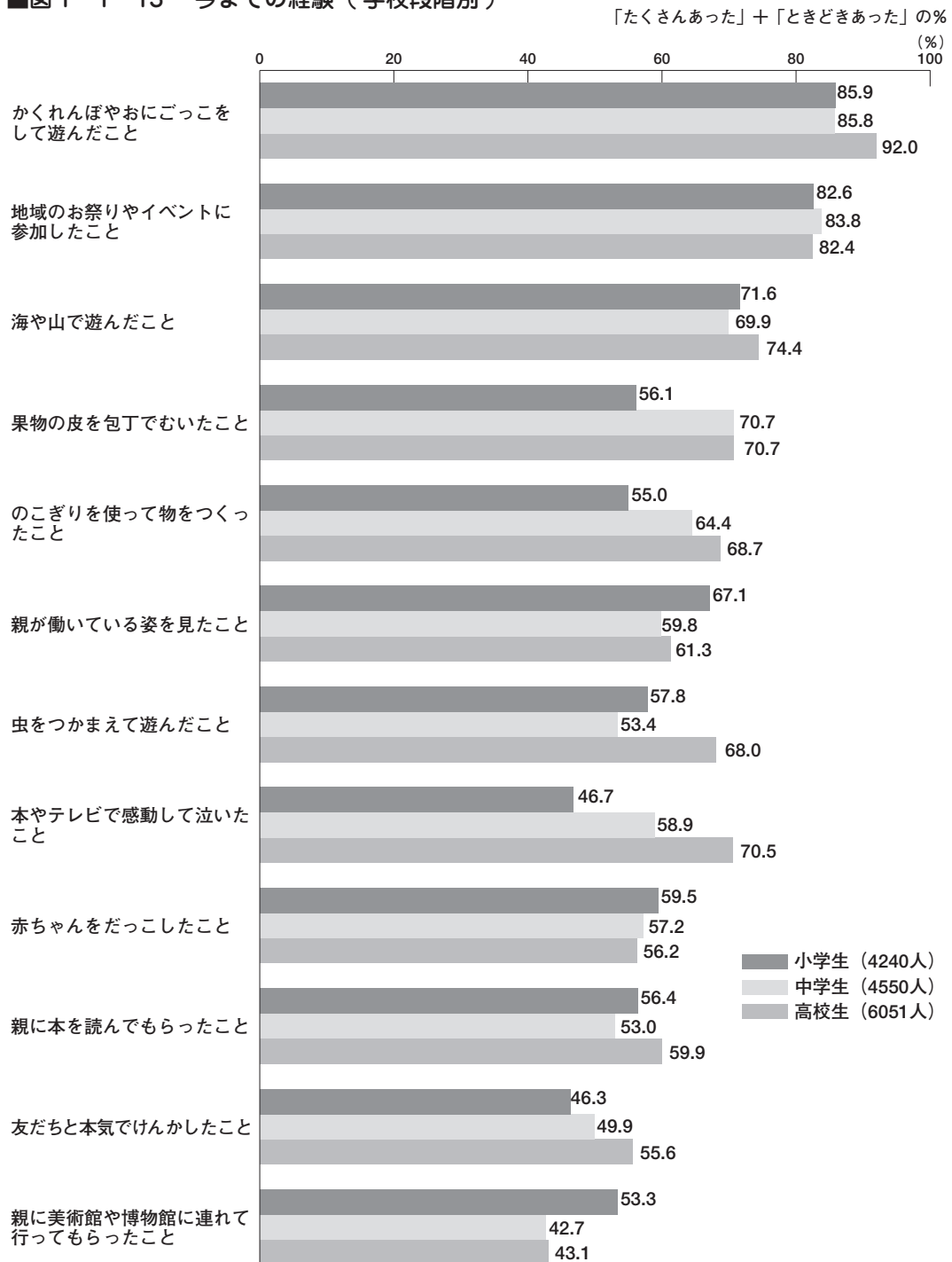
逆に回答が少なかった項目は、「親に美術館や博物館に連れて行ってもらったこと」(53.3%、42.7%、43.1%)、「友だちと本気でけんかしたこと」(46.3%、49.9%、55.6%)、「親に本を読んでもらったこと」(56.4%、53.0%、59.9%)であり、親の状況や友だちとのかかわりの深さなど、個人の状況が反映

されやすい項目が並んでいる。しかし、それでも約半数が「たくさんあった」+「ときどきあった」と答えている。

次に、学校段階による回答傾向の差をみてみよう。「果物の皮を包丁でむいたこと」「のこぎりを使って物をつくったこと」のように一定の年齢になってから許可されるようなもの、「本やテレビで感動して泣いたこと」「友だちと本気でけんかしたこと」といった情緒面での発達に関連した事柄については、学校段階が上がるほど回答率が高くなった。

逆に、一般にごく幼いときに経験するような、「かくれんぼやおにごっこをして遊んだこと」「海や山で遊んだこと」「虫をつかまえて遊んだこと」「親に本を読んでもらったこと」などは、中学生でいったん減った後、高校生で増える(すべての項目で中1生が最低となっている)。これは、小学生ではリアルタイムの経験として回答するが、それ以後年齢を重ねると過去の経験として判断するなど、判断の基準が変わるからかもしれない。

■図1-1-13 今までの経験（学校段階別）



「親に美術館や博物館に連れて行ってもらったこと」は、それらの施設へアクセスしやすい大都市のほうが回答率は高かった。

◆経験が豊かだと成績、社会、将来にも積極的

このような経験があった場合となかった場合で、成績や社会性に影響はあるだろうか。

経験について尋ねた12項目のうち、「たくさんあった」＋「ときどきあった」のどちらかに回答した項目がいくつあるかをみると、小学生で平均7.5、中学生で平均7.5、高校生は平均8.1であった（12項目のうち1つでも「無回答・不明」があったケースを除いて計算）。そこで、「たくさんあった」＋「ときどきあった」が7つ以下の場合を「経験少なめ」群、8つ以上の場合を「経験多め」群

として、経験の多さと、成績や社会、将来への関心に関する設問への回答との関係をみたのが、表1-1-15である。

高校生においては、経験の多少で偏差値層に差はみられなかったが（図表省略）、小・中学生では、「経験多め」群のほうが、成績の自己評価が高かった。また、すべての学校段階で、「経験多め」群のほうが、ふだん「新聞の記事を読む」「テレビのニュース番組を見る」について「よくある」＋「ときどきある」と回答した割合が高く、なりたい職業について「ある」と回答した割合が高かった。つまり、経験を多く積んでいるほうが、成績の自己評価が高く、社会への関心が高く、自らの将来についてのイメージも明確であると言える。

■表1-1-15 経験の量と成績、社会、将来への関心（学校段階別）

		成績 (小・中学生のみ)			新聞の 記事を読む		テレビのニュース 番組を見る		なりたい職業	
		上位	中位	下位	よく十 ときどき ある	あまり十 ぜんぜん ない	よく十 ときどき ある	あまり十 ぜんぜん ない	ある	ない
小学生	経験多め群 (2105人)	35.5	30.1	25.7	48.9	50.5	80.2	19.2	70.0	26.3
	経験少なめ群 (1922人)	24.3	33.8	33.0	30.6	68.7	69.6	29.9	56.7	39.0
中学生	経験多め群 (2391人)	37.1	33.5	28.0	43.2	56.4	80.0	19.7	67.6	29.9
	経験少なめ群 (2040人)	32.2	31.5	34.6	32.8	67.0	68.6	30.9	55.0	41.8
高校生	経験多め群 (3721人)	—	—	—	49.1	50.8	83.0	16.9	70.5	27.8
	経験少なめ群 (2263人)	—	—	—	38.3	61.5	73.4	26.5	60.8	36.3

注1) 経験に関する12項目すべてに回答し、「たくさんあった」＋「ときどきあった」が7つ以下の場合を「経験少なめ」群、8つ以上の場合を「経験多め」群とした

注2) 「無回答・不明」の割合は省略してある

注3) 成績(小・中学生)は、国語・算数(数学)・理科・社会・英語(中学生)の自己評価の合計点によって3区分した

◆経験の豊富さと親との関係性

以上の結果から、当然、多くの経験を積んだほうがよいということが言えるだろう。しかし、このような経験のなかには、先にみたような地域の条件が強く関係するものもある。また、養育方針や親の状況が関係するものもある。

実際、「親に本を読んでもらったこと」「親に美術館や博物館に連れて行ってもらったこと」などは、母親が「常勤」の場合に比べて、「専業主婦」や「パートやフリー」である場合の選択率が高く、逆に「親が働いている姿を見たこと」ではおおむね母親が「常勤」のほうが選択率は高いなど、母親の就労形態が強く関係するものもある（表1-1-16）。しかし、だからと言って、地域の条件などは、簡単に変えられない。母親が働いたほうがよい／働かないほうがよいと容易に判断することは、難しいであろう。

そこで、このような経験の数と親（父親、

母親両方）との関係性についてみてみよう。「経験多め」群、「経験少なめ」群それぞれについて、親の関与のあり方に対して肯定的な評価を表す5項目に「あてはまる」と答えた割合をみたのが、表1-1-17である。すべての項目において、「経験多め」群のほうが、「あてはまる」と答えた割合が高い。これらの項目は、親が子どもに考えをおしつけずに、しかし、ポイントポイントではしかったりほめたり、相談にのってくれたりするという関係を表している。つまり、地域や親の就労状況などの条件と同時に、このような関係性が築けていることと、経験の量が多いことが関係している。経験を積んでいるから親との関係が良好なのか、親との関係が良好だと経験を積むのかは厳密には特定できないが、このようなおとなと子どもの関係性に、子どもが積極的に多くの経験を積み、関心を広げていく可能性があるかもしれない。

■表1-1-16 今までの経験（学校段階別、母親の就労形態別）

	小学生			中学生			高校生		
	常勤 (1824人)	専業主婦 (873人)	パートやフリー (697人)	常勤 (2065人)	専業主婦 (670人)	パートやフリー (1050人)	常勤 (2559人)	専業主婦 (799人)	パートやフリー (1280人)
親が働いている姿を見たこと	69.3	63.9	70.1	63.8	54.6	58.3	69.2	54.1	55.9
親に本を読んでもらったこと	53.0	62.2	61.2	49.0	58.0	58.8	59.4	64.7	61.6
親に美術館や博物館に連れて行ってもらったこと	50.9	58.1	54.7	41.3	46.4	42.1	40.4	51.2	43.1

「たくさんあった」+「ときどきあった」の%

注1) 学校段階ごとで差がみられたもののみ掲載

注2) それぞれ最も回答率の高かったものに 、低かったものに  の網掛けをした

■表1-1-17 経験の量と親の関与（学校段階別）

		勉強を 教えてくれる	いいことを したときに ほめてくれる	親の関与		困ったときに 相談に のってくれる	あなたのことを 大人として 扱ってくれる
				悪いことを したときに しかってくれる	困ったときに 相談に のってくれる		
小学生	経験多め群 (2105人)	76.3	83.1	88.1	70.9	18.3	
	経験少なめ群 (1922人)	67.6	71.7	78.8	56.7	11.4	
中学生	経験多め群 (2391人)	38.4	61.4	75.2	46.6	15.1	
	経験少なめ群 (2040人)	32.2	44.6	61.7	30.9	7.7	
高校生	経験多め群 (3721人)	13.8	51.5	69.4	43.2	17.0	
	経験少なめ群 (2263人)	9.6	35.6	53.2	28.1	10.6	

「あてはまる」の%

注1) 経験に関する12項目すべてに回答し、「たくさんあった」+「ときどきあった」が7つ以下の場合を「経験少なめ」群、8つ以上の場合を「経験多め」群とした

注2) 親の関与に関する10項目のうち肯定的関係についての5項目を抜粋

注3) 複数回答

8. 部活動・アルバイト

中学生も高校生も、週の大半、1回2時間～2時間半程度と、かなり熱心に部活動を行っている。また、高校生の8割がアルバイト未経験者で、多くはなかった。しかし、大都市では気軽にアルバイトを経験する傾向がある。

◆部活動は1日2時間、週4～5日

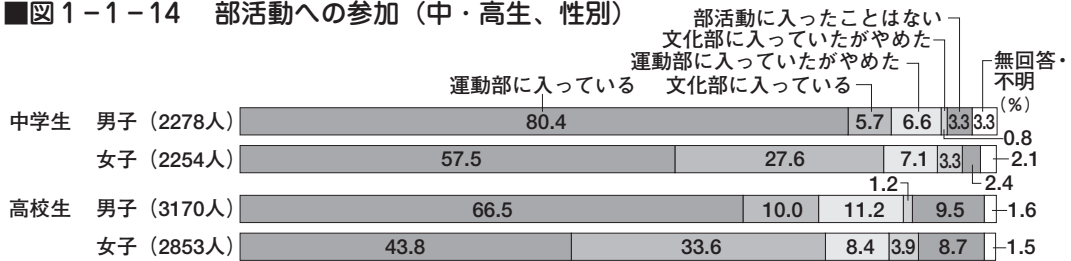
中学生の85.6%、高校生の76.9%が、「運動部に入っている」+「文化部に入っている」と答えており、多くの中・高生は、現在部活動に参加している。「運動部に入っていたがやめた」「文化部に入っていたがやめた」場合を加えると、中学生で94.4%、高校生で89.3%が部活動を経験している。また、全体的に文化部よりも運動部に参加している生徒が多い（基礎集計表参照）。

中学生と高校生のそれぞれについて、性別に部活動への参加状況をみたのが図1-1-14である。中学生に比べて高校生のほうが「部活動に入ったことはない」が増加しており、部活動から離れる層が少し増えるようだ。また、中・高生とも、男子のほうが女子に比

べて、文化部ではなく運動部に参加している割合が高い。

さらに部活動に入っている場合、または入っていたがやめた場合の活動の日数と時間をみたのが、表1-1-18である。中学生の平均活動日数は、文化部で4.3日、運動部で5.2日となっており、1週間の半分以上を部活動に費やしている。高校生になると、文化部と運動部の差がさらに開く。また1回あたりの活動時間では、運動部のほうが長いと答える者が多いものの、全体的に1回あたりの時間は「2時間くらい」から「2時間30分くらい」で、ある程度まとまった時間で活動している。中・高生は、放課後の多くの時間を部活動に費やしていると言える。

■図1-1-14 部活動への参加（中・高生、性別）



■表1-1-18 部活動参加者の活動時間（中・高生、運動部・文化部別）

①活動日数（1週間あたり）		（%）										平均活動日数
		ほとんど活動していない	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答・不明		
中学生	文化部に入っている+入っていたがやめた(848人)	7.3	10.0	2.8	7.8	8.6	26.7	27.5	8.5	0.8	4.3日	
	運動部に入っている+入っていたがやめた(3450人)	2.2	0.6	2.2	6.5	11.7	23.6	39.2	13.4	0.7	5.2日	
高校生	文化部に入っている+入っていたがやめた(1430人)	10.1	12.5	12.8	8.3	5.7	16.4	13.5	20.1	0.6	3.9日	
	運動部に入っている+入っていたがやめた(3975人)	1.7	0.4	1.2	4.0	5.8	12.7	40.9	32.1	1.3	5.8日	

注1) それぞれ、1番目 ■と2番目 ■に回答率の高かった項目に網掛けをした
 注2) 平均活動日数は、「ほとんど活動していない」を0日と見なし、「無回答・不明」を除いて算出

②活動時間（1回あたり）		（%）										平均活動時間数
		1時間未満	1時間くらい	1時間30分くらい	2時間くらい	2時間30分くらい	3時間くらい	3時間30分くらい	4時間くらい	4時間以上	無回答・不明	
中学生	文化部に入っている+入っていたがやめた(848人)	3.4	9.9	16.2	33.6	19.7	10.1	2.8	1.7	0.8	1.8	2時間04分
	運動部に入っている+入っていたがやめた(3450人)	1.4	4.8	11.2	31.9	21.8	17.6	5.0	3.0	2.1	1.4	2時間21分
高校生	文化部に入っている+入っていたがやめた(1430人)	4.6	11.4	15.5	33.6	19.3	12.0	1.6	0.3	0.3	1.3	2時間00分
	運動部に入っている+入っていたがやめた(3975人)	0.7	5.1	9.7	29.7	25.4	18.9	4.7	2.7	1.4	1.8	2時間22分

注1) それぞれ、1番目 ■と2番目 ■に回答率の高かった項目に網掛けをした
 注2) 平均活動時間数は、「1時間未満」を0.5時間、「4時間以上」を4.5時間と見なし、「無回答・不明」を除いて算出

◆アルバイト経験は少数派

高校生には、アルバイト経験を聞いている。全体でみると「現在、している」が5.3%、「したことはあるが、現在はしていない」が10.4%と経験者は少数派で、「したことがない」が79.1%と多数派であった（基礎集計表参照）。しかし、「現在、している」場合は、平均月10.5日、つまり週2～3日と熱心に働いている様子うかがえる（図表省略）。

さらに属性ごとに細かくみたのが図1-1-15である。高1生より高2生のほうが、「現在、している」も「したことはあるが、現在はしていない」も増え、アルバイトを経験する機会が増えている。

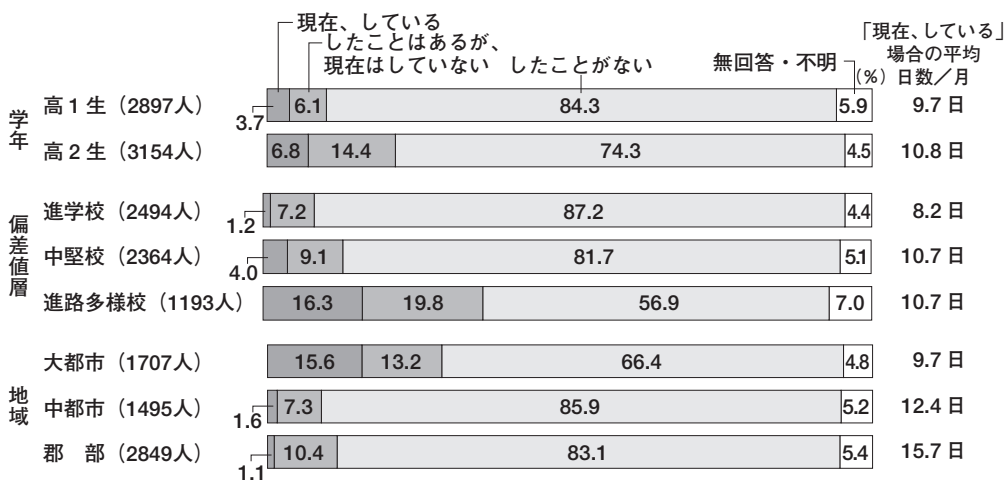
高校偏差値層別では、進学校、中堅校、進路多様校の順でアルバイトを経験した生徒の割合が増えている。このような差は、本人の希望の他に、学校がアルバイトを許可してい

るか否かにも関係しているのかもしれない。

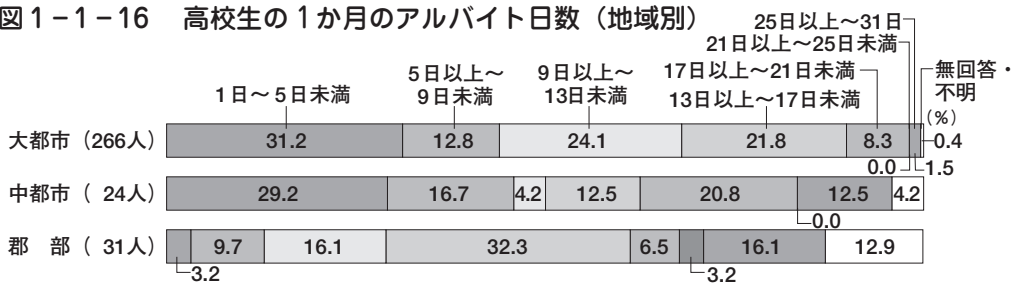
◆大都市では気楽にアルバイト

興味深いのは、アルバイト経験の地域による差である。図1-1-15にあるように、大都市、郡部に比べて大都市の高校生たちの「現在、している」の割合が突出している。しかし、「現在、している」と答えた場合の1か月に働いている日数では、大都市<中都市<郡部の順に多くなる（図1-1-16）。つまり、大都市では多くの高校生が気楽にアルバイトを経験しているのに対し、都市規模が小さくなるほど、アルバイト経験者は減るが、アルバイトをしている生徒はかなり熱心に働いているようである。アルバイトの種類は聞いていないが、都市のほうが気軽にできるアルバイトが多いということだろうか。

■図1-1-15 高校生のアルバイト経験（学年別、高校偏差値層別、地域別）



■図1-1-16 高校生の1か月のアルバイト日数（地域別）



注) アルバイトを「現在、している」と回答した者のみ